

情報教育部門活動報告 ～新規開講科目紹介～

松本 豊司
佐藤 正英
森 祥寛

1 はじめに

「情報処理基礎」に続く新規科目開講の検討は平成 20 年 7 月 17 日の平成 20 年度第 1 回情報グループ幹事会から始まり、平成 22 年後期には、3つの科目「文系のための情報処理」、「理工系のための情報処理」および「医、薬、保健系のための情報処理」として開講されました。

2 授業の構成

これらの3科目は共通教育科目の「一般科目・自然」2単位の科目として開講し、その内容はこれまでの「一歩進んだPC 活用講座」における情報グループの教育実践結果を反映されたものとなっています。ここでは、単にソフトウェアの使い方を教えるだけでなく、グループ学習を取り入れ、学生がお互いに刺激しあって、成長する形式になっています。例えば、「文系のための情報処理」では以下のように初期バージョンの内容が決められ教材等が作成されましたが、課題、レポートなどと共に各学域、学類の要望にそって順次改訂が行われます。

表1 「文系のための情報処理」における授業構成

回	内容
1	ガイダンス
2	Word その1 (文章の作成・カスタマイズ・設定) グループ分け
3	Word その2 (ビジュアルコンテンツ操作)
4	Word その3 (文章整理)
5	PowerPoint (プレゼンの作成・書式設定)
6	PowerPoint (プレゼン技術)
7	各グループによる練習課題のプレゼン
8	Excel その1 (セルの結合など、表の編集)
9	Excel その2 (関数)
10	Excel その3 (マクロ、VBA) 最終グループ分け
11	グループ実習
12	グループ実習
13	グループ実習
14	グループ課題発表会1
15	グループ課題発表会2

3 評価

この授業では e ラーニングを用いた評価を行い、この授業で知識、能力がどのように積み上げられたかを確認できる機会を複数回提供しています。その評価は、経済産業省「社会人基礎力」や中央教育審議会大学分科会小委員会 学士力を可能な限り考慮した内容になっています。

図1はグループ課題のプレゼンに関して相互に評価し合う相互評価入力画面です。

	S	A	B	C	コメント
グループ1	学生ならではの視点から非常にユニークで、実用レベルのプレゼンとなっている。	学生ならではの視点からユニークで、実際に使えそうなプレゼンとなっている。	改善の余地が多く残るが、可能性を感じさせるプレゼンである。	プレゼンのテーマの理解が不足し、なお一層の改善が必要。	
グループ2	プレゼンの技術がしっかりしており、理解しやすい。	プレゼンの技術が普通であり、普通に理解できる。	プレゼンの技術に改善が必要であり、最低限の理解はできた。	プレゼンの技術も理解も不十分であった。	

図1. 相互評価入力画面

図2が相互評価結果の例です。

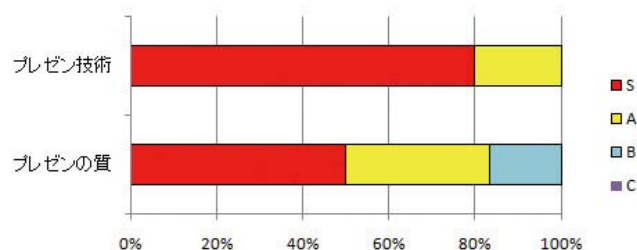


図2. 相互評価結果の例

このグループ発表に関するコメントを以下に示します。

- ・とってもわかりやすい!実際のレポートを多く示してくれたのはとても良い。
- ・表 (円グラフ) をもっと分かりやすく表せばよかった。
- ・実際のレポートの図がたくさん載っていて分かりやすかった。
- ・スライドの中にレポートの一部を組み込んでいたのでスライドとしての完成度が高いと思います。また声も聞き取りやすく良かったです。

今後、この授業は各学域、学類と連携し発展させる予定です。